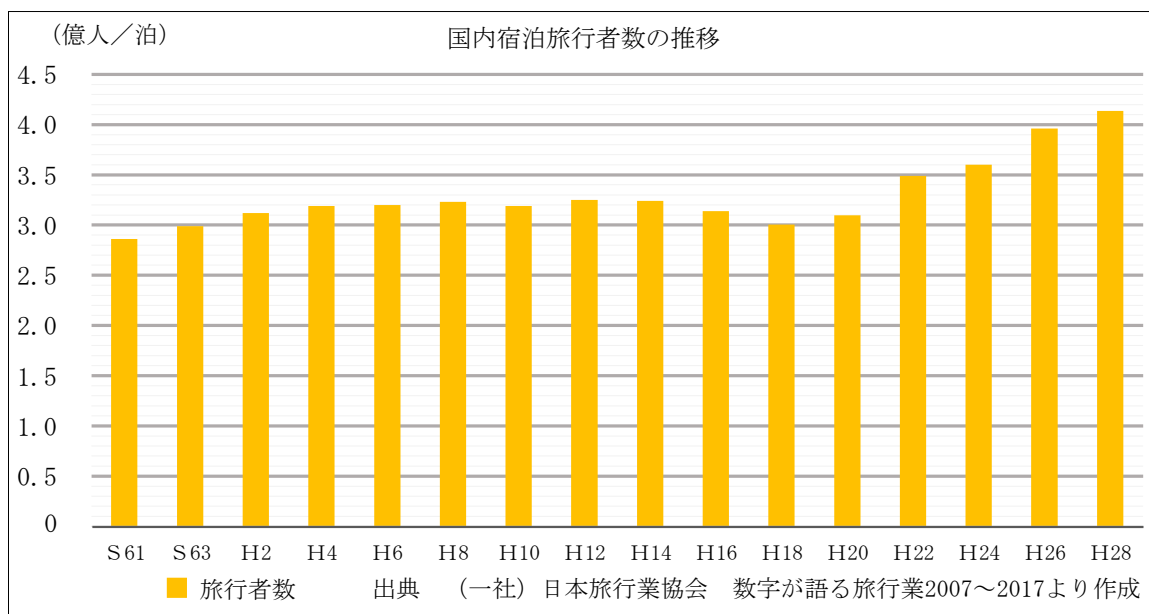
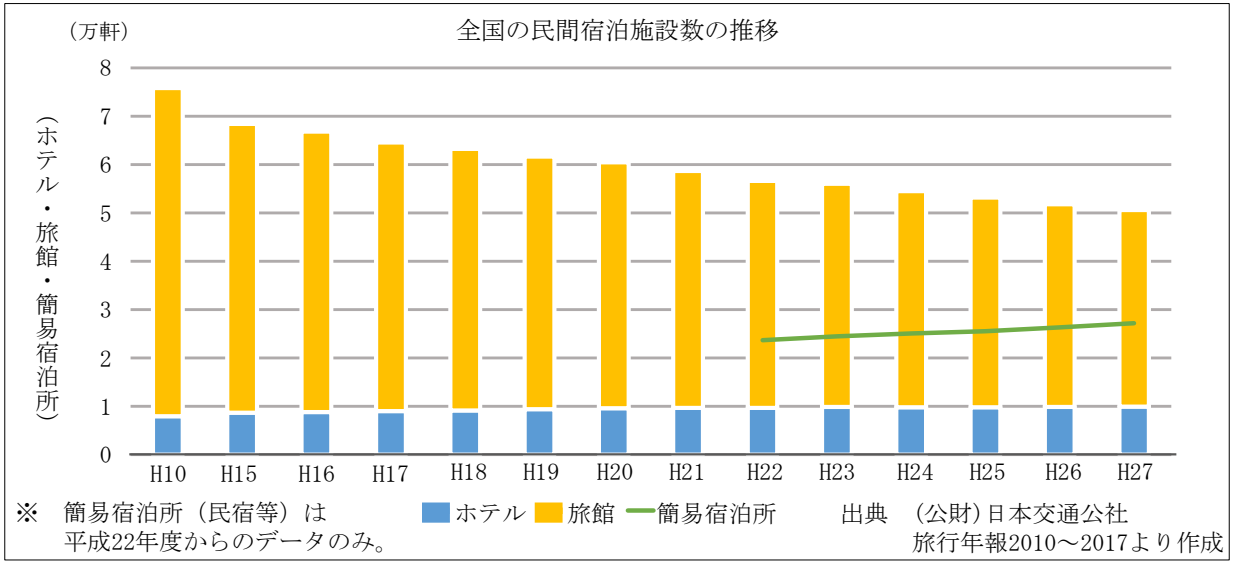


各種統計資料から見た 旅行の現状

1

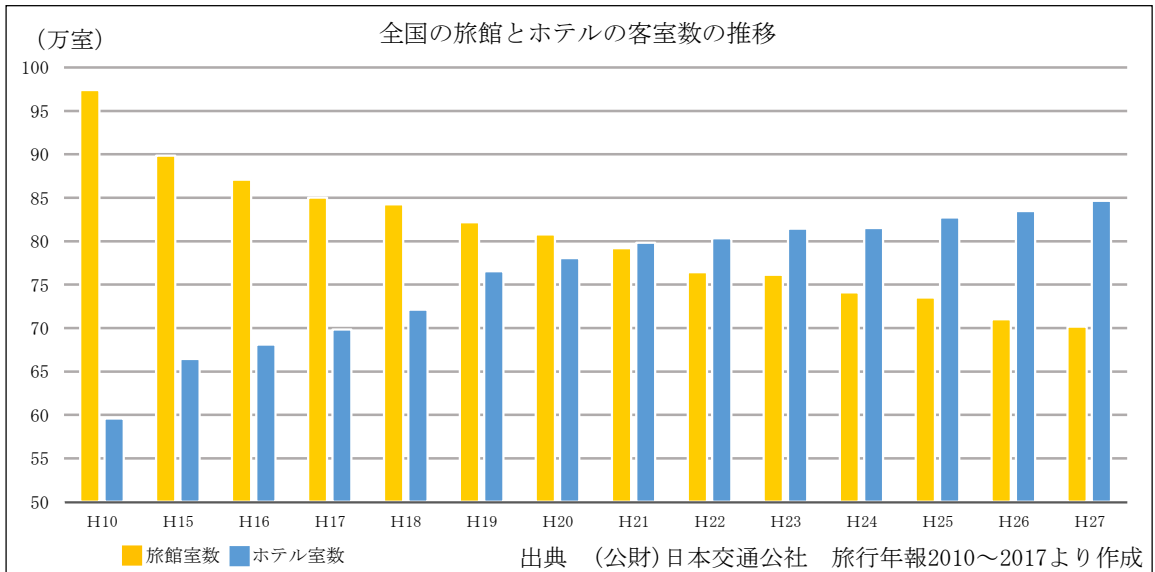


国内宿泊旅行者数は一時期横ばいの状況が続いたが、近年では増加傾向にある。 2



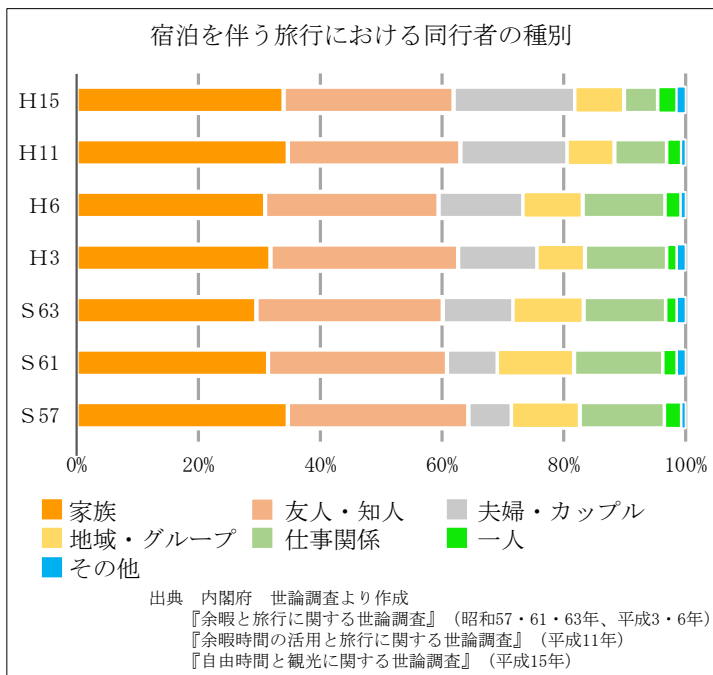
旅館の数は減少傾向であるのに対し、安価でビジネス目的などでも利用できるホテルが全国的に微増傾向にある。また、民宿やペンションなど、小規模な簡易宿泊所も全国的に微増傾向にある。

3



全国の民間宿泊施設数の推移のグラフと比較すると、旅館は施設数と客室数の下がり方が同程度だが、ホテルは施設数に比べて客室数が大きく上がっている。

4



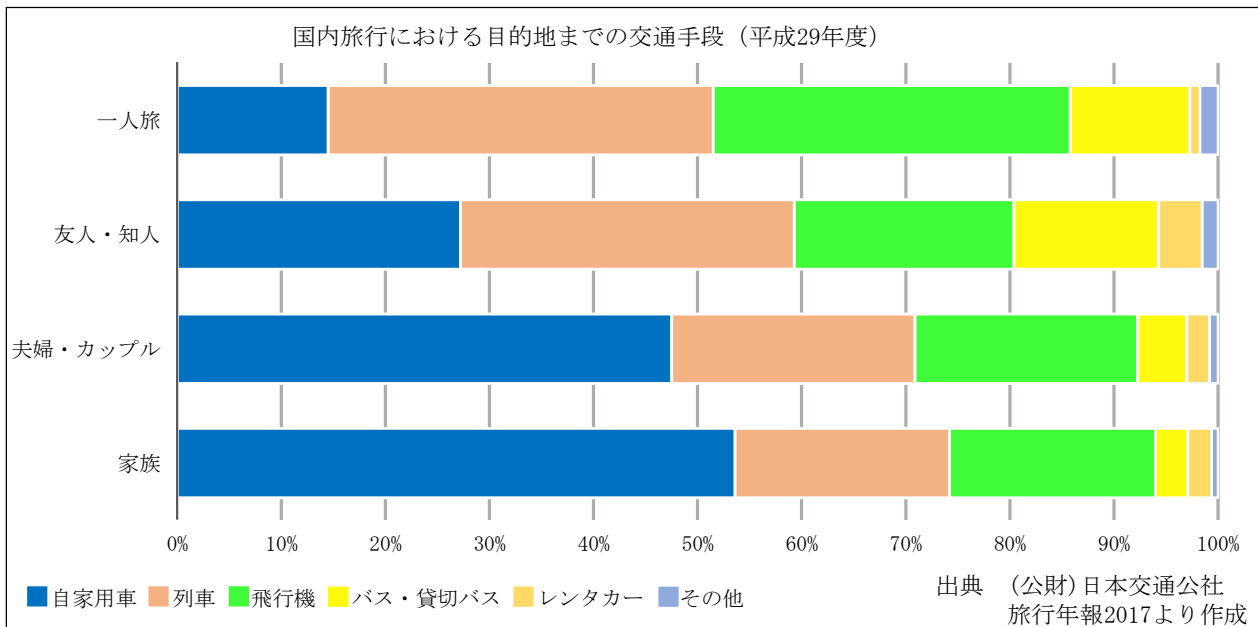
仕事関係や地域・グループなどの『**団体**』での旅行が減少。

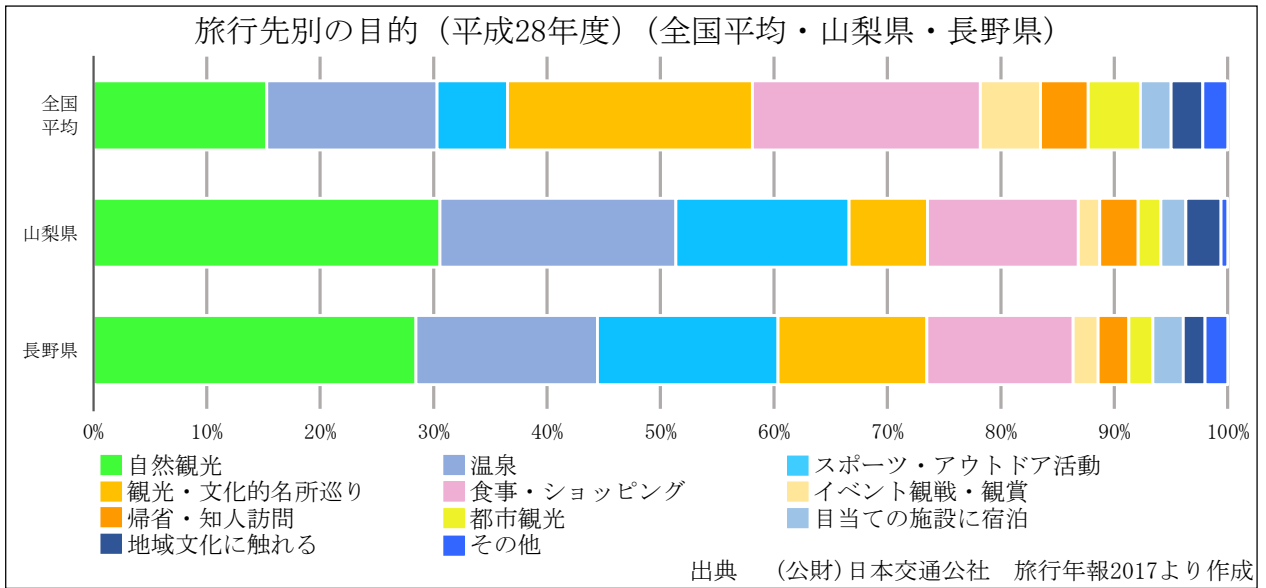


近年では、個人、夫婦・カップルや家族などの『**少人数**』での旅行が主流に。

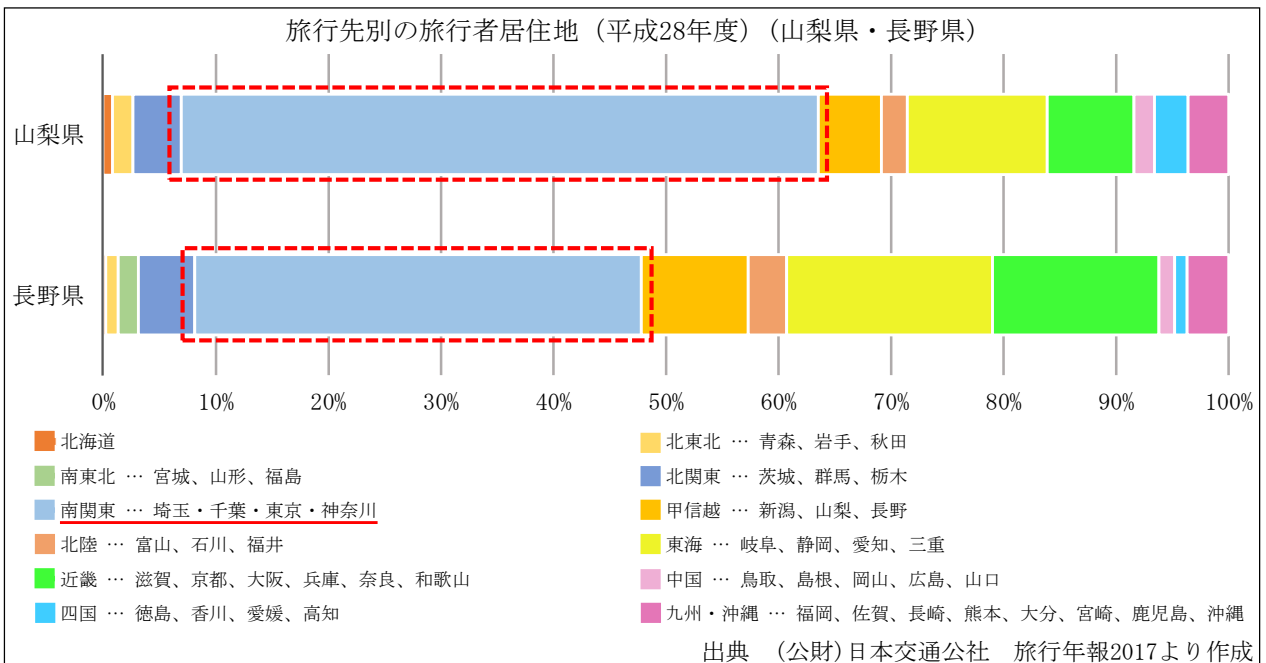
観光庁 平成29年度 観光白書より

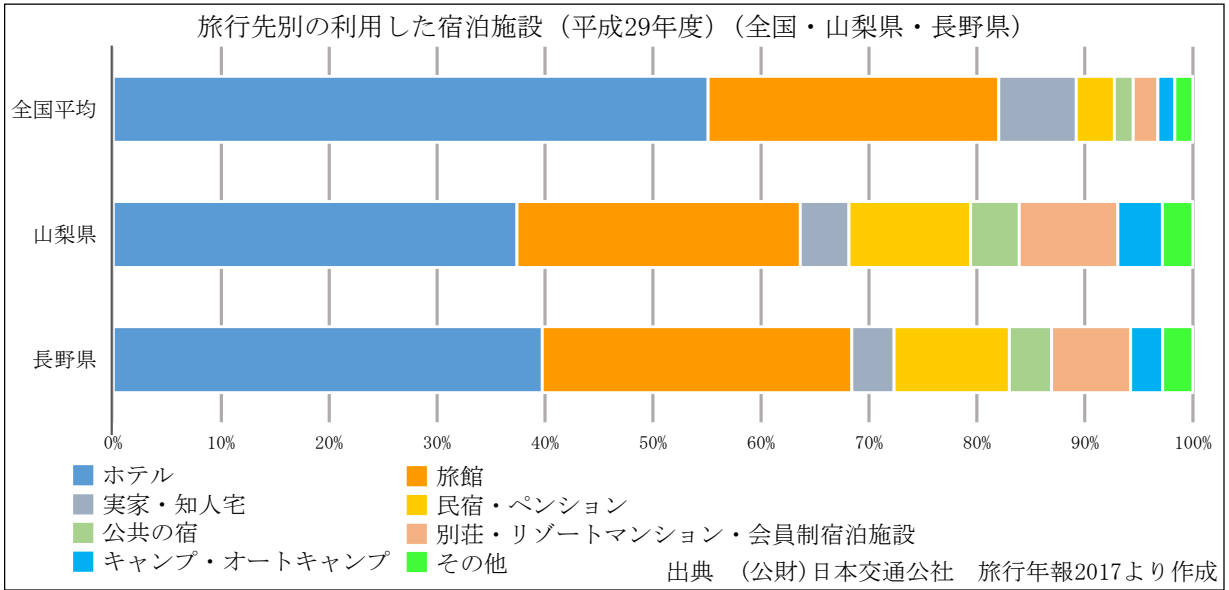
『団体』であれば宿泊が必須となるが、近年は『少人数』での旅行が主流となっており、気軽に出かけやすい日帰りでの旅行が増加している。



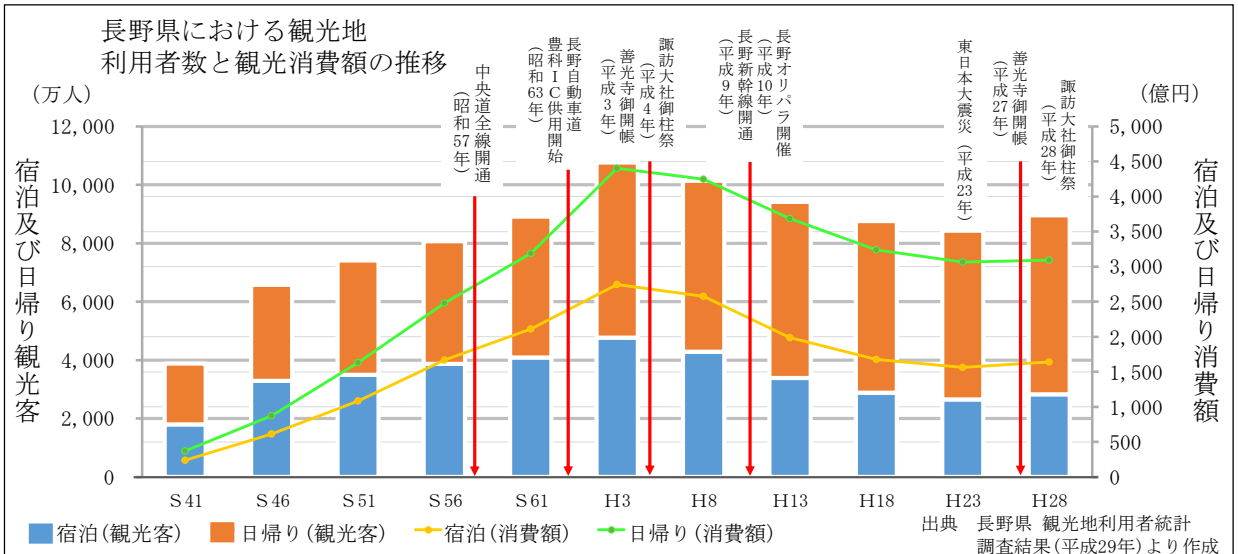


全国平均と比べると、長野県と山梨県では自然観光、スポーツ・アウトドア活動を目的とする人の割合が多い。

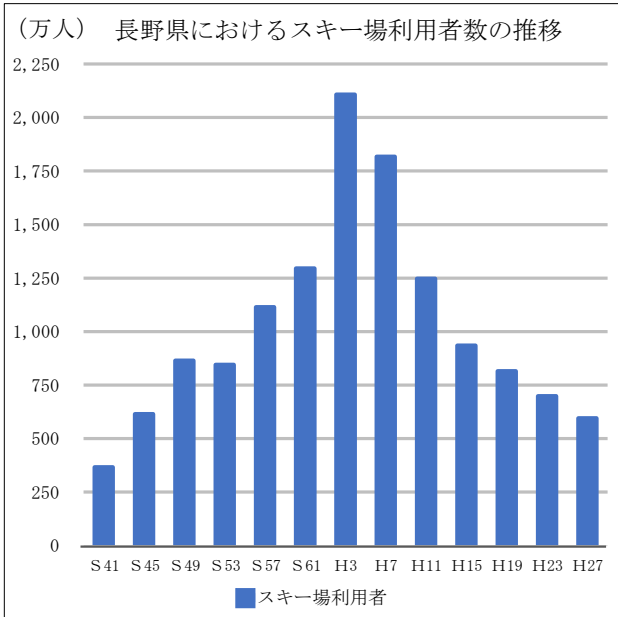




➡ 全国平均と比べると、長野県も山梨県もホテルの利用が少なく、『民宿・ペンション』『別荘・リゾートマンション』『キャンプ・オートキャンプ』の利用が多い傾向にある。 **9**



➡ 中央道全線開通や長野自動車道豊科ICの供用開始によって観光客が増加、平成2年度には**1億人**を突破する。その後、バブルの崩壊によって旅行者数が減少傾向に。長野オリンピックパラリンピック開催に伴って、長野新幹線が開通し、移動時間の短縮化によって、泊まらなくても観光が出来るようになる。 **10**



出典 長野県 スキー・スケート場の利用者統計調査より作成

昭和47年の札幌オリンピックからスキー人口が増加。その後、昭和62年には「私をスキーに連れてって」がヒットし、スキー人口が爆発的に増加。



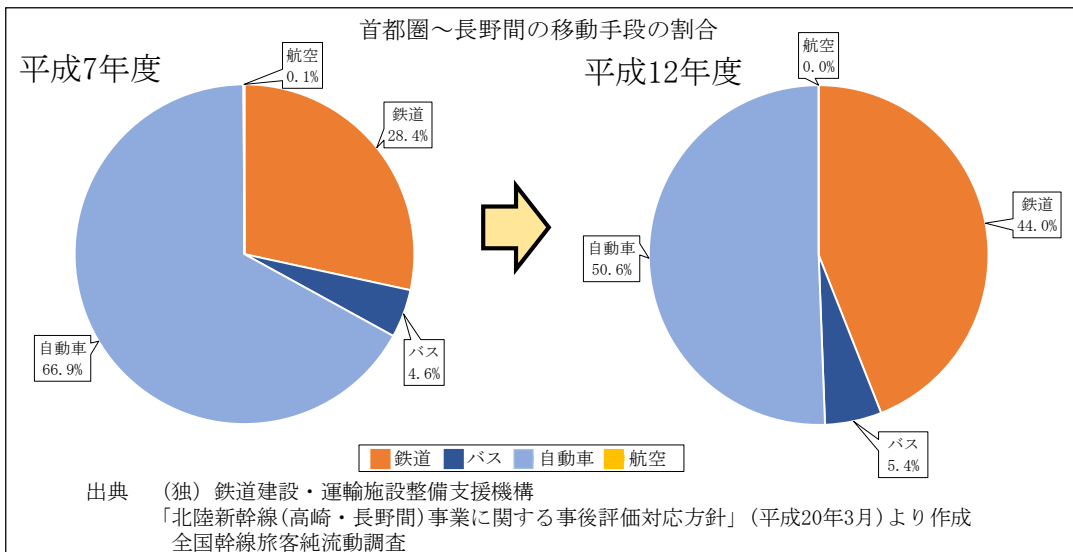
- ・上越新幹線が整備 (昭和57年)
- ・バス乗車券とスキー場のセット販売 (昭和61年)
- ・週休2日制の普及

長野県で平成2年にスキー場利用客数が**2,000万人**を超える。

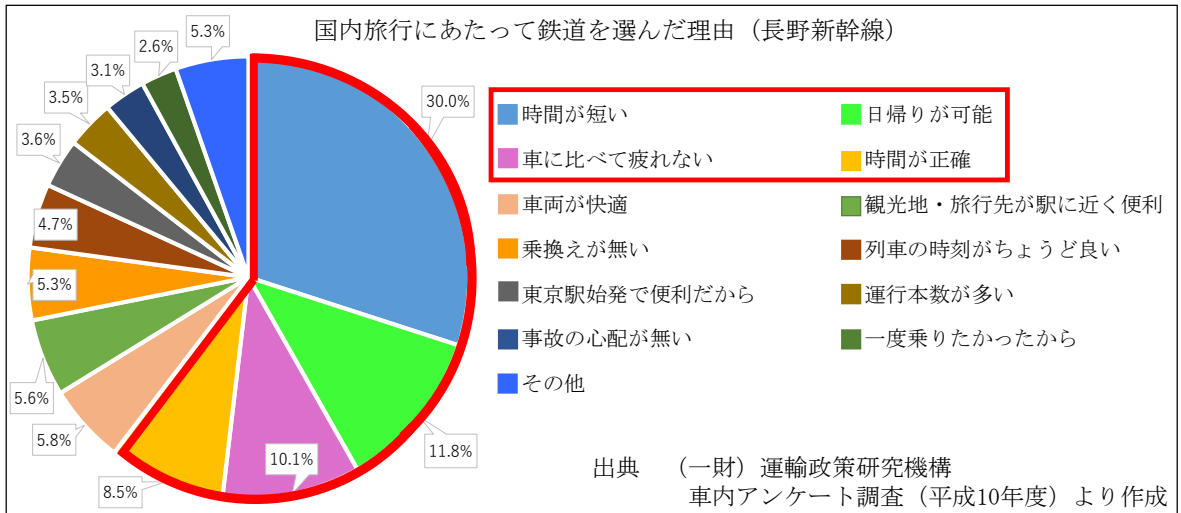


1990年代の暖冬気味による雪不足や、バブルの崩壊による不況もあり、全国的にスキー人口が減少し、長野県でもスキー人口が減少傾向に。

(公財) 日本生産性本部 レジャー白書より



長野新幹線の開通により、首都圏から長野まで移動の際には、新幹線などの鉄道利用割合が増加しており、自動車の利用割合が減少している。

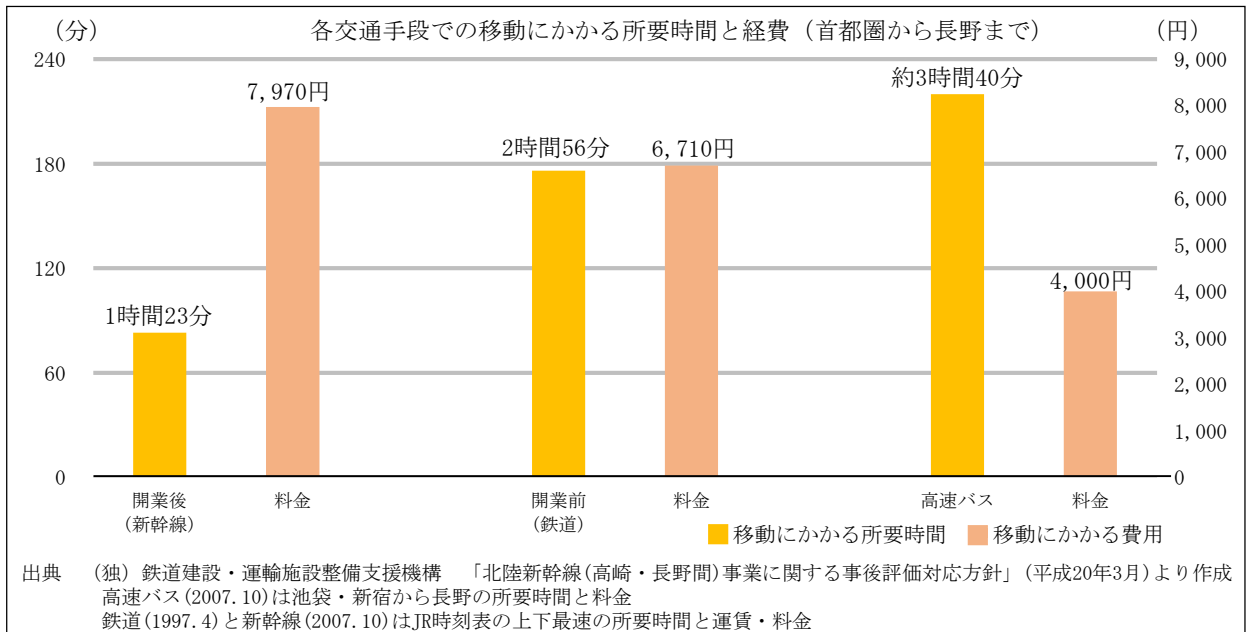


移動にかかる時間や移動に際しての労力について5割以上を占める。

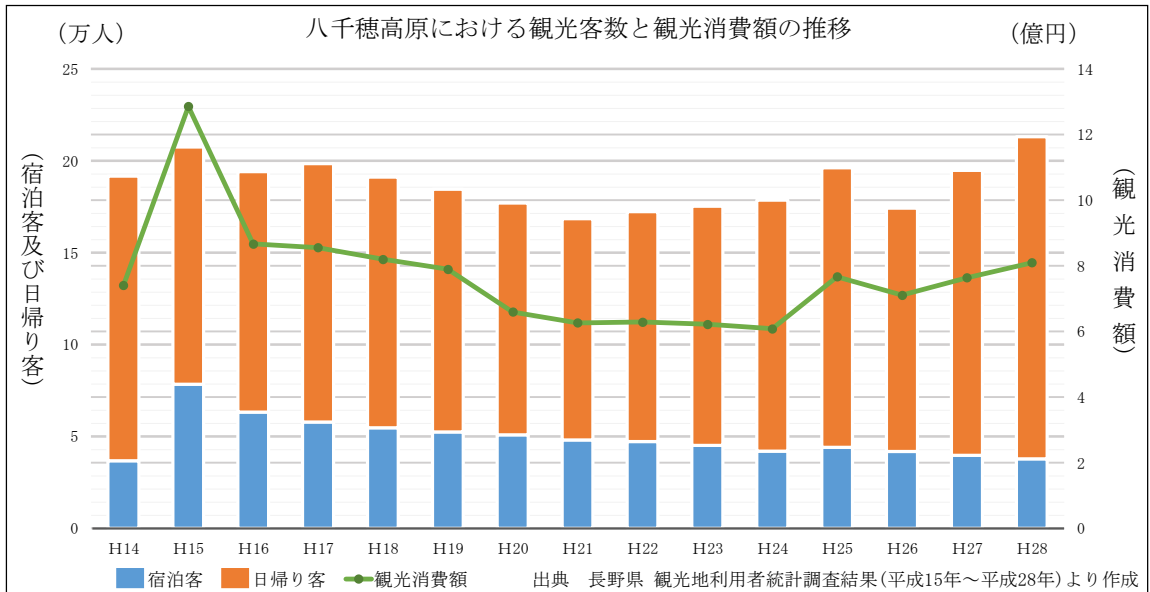


交通渋滞などもなく、時間が短縮化されることによって日帰りが可能となるため、**宿泊旅行が減少傾向に。**

13



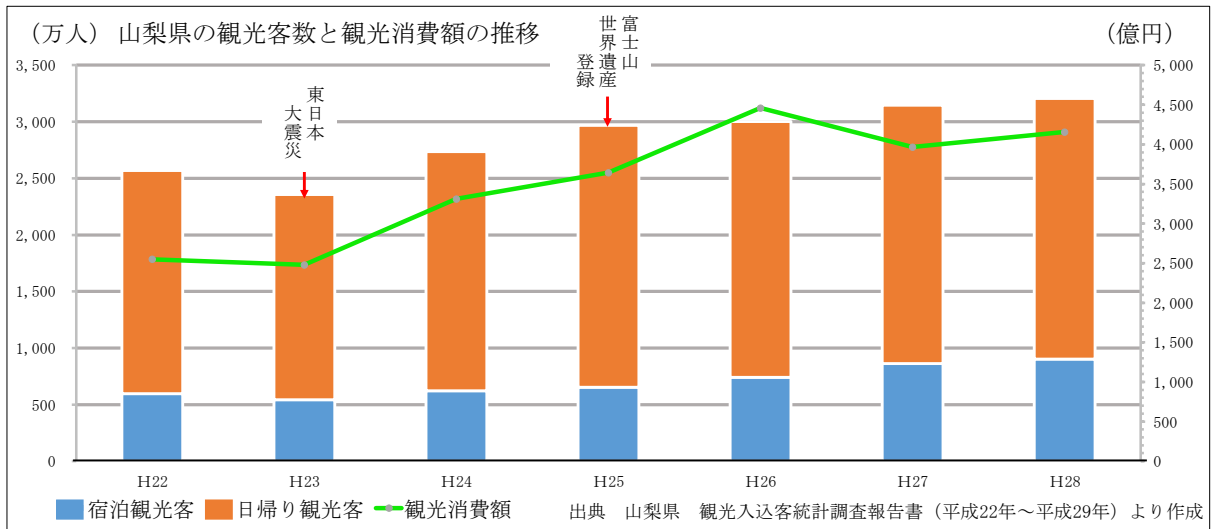
14



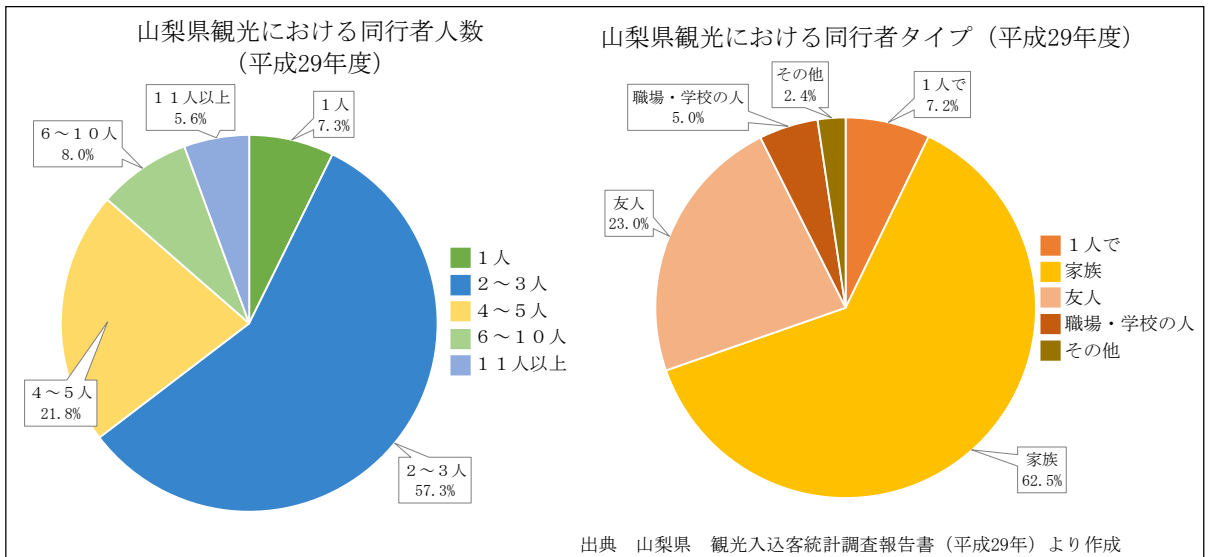
宿泊客数は減少傾向、日帰り客数は増加傾向にある。
また、観光消費額も近年は増加傾向である。



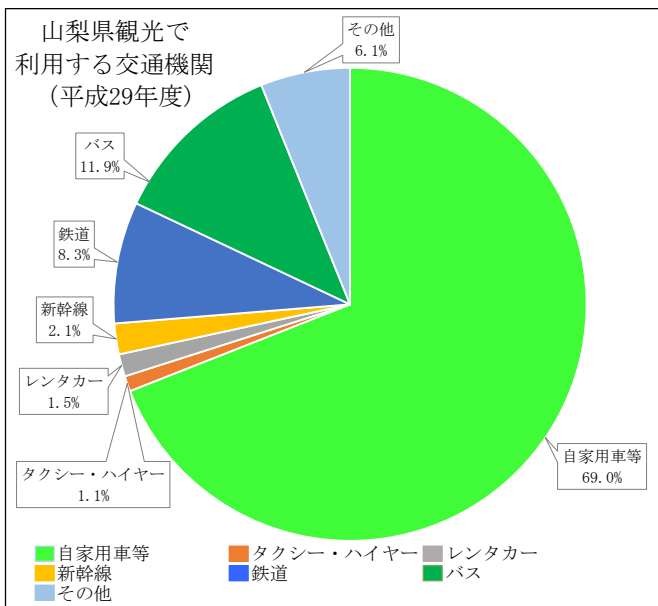
宿泊しない分、お土産の購入などで、
八千穂高原での消費額が増加している。 **15**



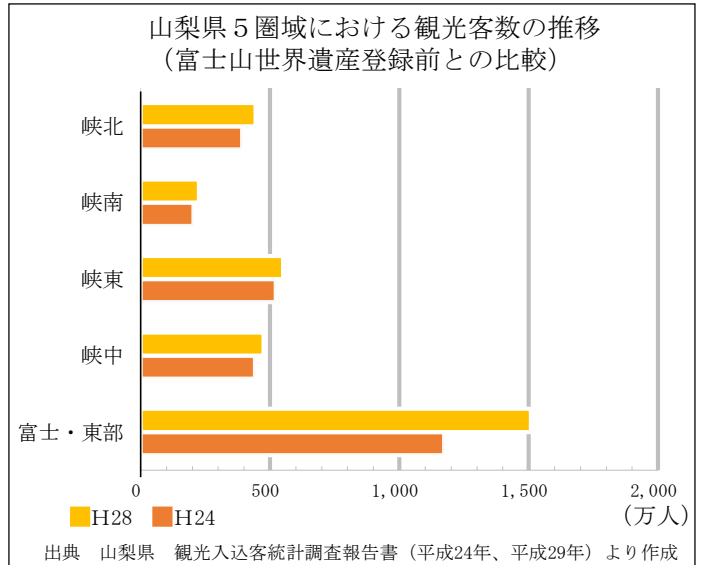
東日本大震災の影響で落ち込みはあったが、
富士山の世界遺産登録などの影響で増加傾向に。



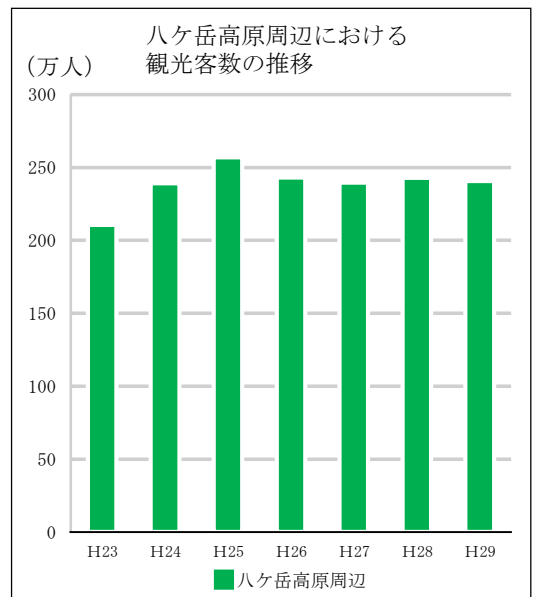
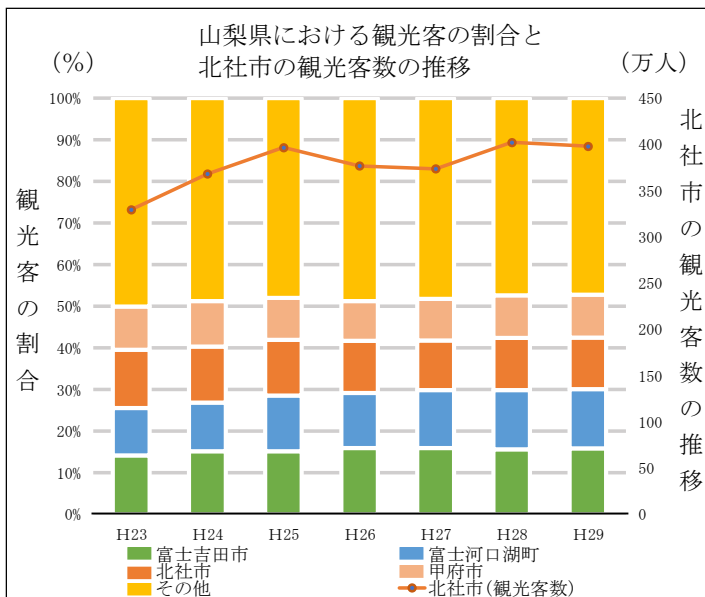
同行者人数から見ると、2～3人が6割を占めている。
 また、同行者タイプで見ると、家族や友人などが8割を占めており、
 全国のニーズと同等に少人数での旅行が多い。



山梨県を訪れる人の約7割が自家用車を利用。
 中央高速道路などの影響で、自動車利用が多い。



➡ 主に富士山のある地域で観光客数が増加、それ以外も微増。 19



出典 山梨県 観光入込客統計調査報告書 (平成24年～平成29年) より作成

➡ 観光客数で見ると八ヶ岳府中山荘がある北社市は増加傾向にあり。八ヶ岳高原周辺では観光客数は横ばい傾向。